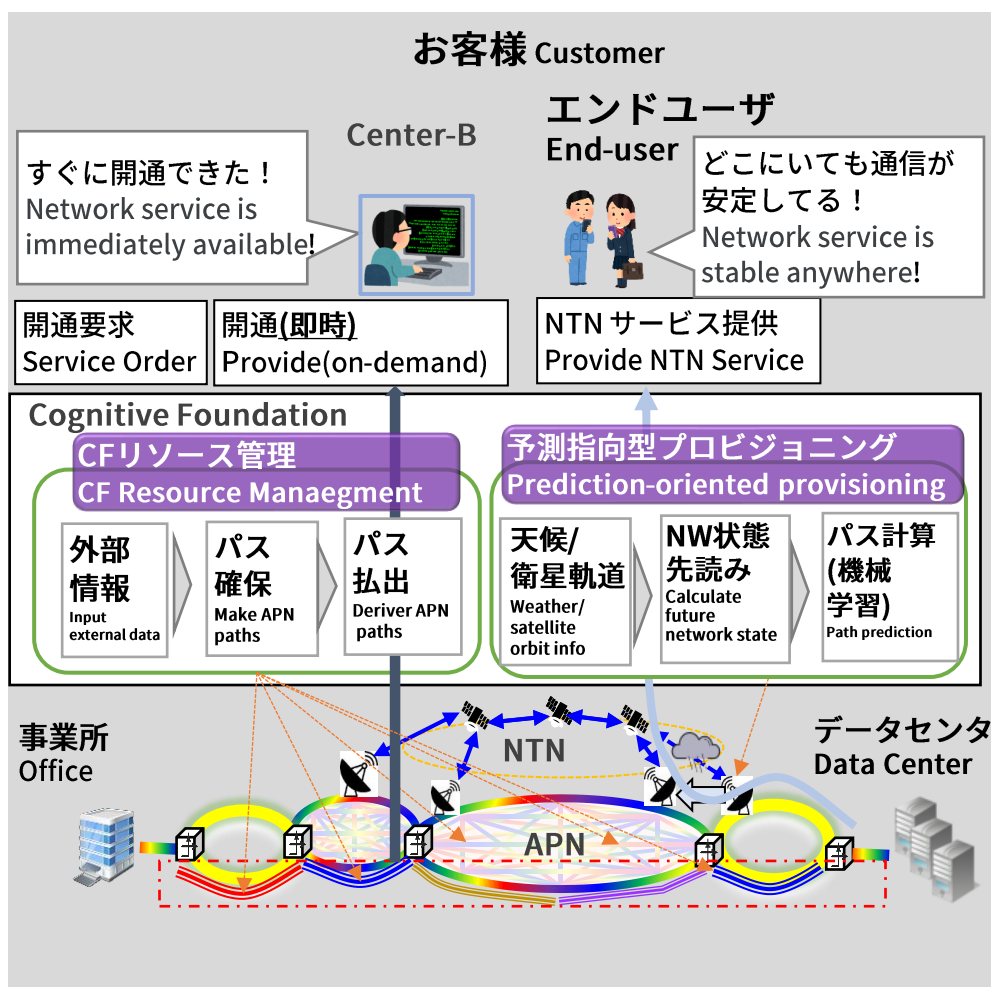


APN/NTNのプロアクティブ制御技術

リソース先読み技術により、将来の動的ネットワークを
安定かつオンデマンドに提供します

#顧客体験価値向上



///技術課題

- ・ オーダ受領からの設計・制御では、APNパスを即時に提供できません。
- ・ 天候や衛星位置によりネットワーク構成が変化するため、通信が安定しません。

///研究目標

- ・ ユーザ申込からサービス（APNパス）の提供まで短時間で完了させます。
- ・ 通信環境が常時変化する非地上系ネットワークの安定通信を実現します。

---要素技術

- ・ 人口比率など外部データを用いてシミュレーションを行い、高需要のAPNパスを先読みして開通する技術
- ・ 衛星軌道や気象予報情報から少し先のネットワーク状態を予測し、事前に経路算出する技術

---市中技術差異点

- ・ 開通に1週間を要する光パス予約・提供では対応できない、ユーザの想定以上のトラフィック増加や大規模災害時の突発的な需要に即時で対応
- ・ NTN経路計算のための制御通信量を従来比90%以上削減し、悪天候による品質変化を予測して分単位で最適経路を更新可能

---適用ビジネス

情報通信分野において、大規模イベントでの突発的な通信需要の増加や災害発生時における緊急通信の確保が求められるシナリオにおいても活用可能

(サービス提供時期：CFリソース管理 2028年度、技術確立：予測指向型プロビジョニング 2027年度末)